

発行:青森県教育庁教育政策課学校の幸せ推進室 (〒030-8540 青森市長島1-1-1)

## 1. 「働き方改革推進事業費補助金」の活用状況

県教育委員会では、働き方改革の推進に向けて、令和6年度から、校務のICT化など、市町村教育委員会が行う学校の環境整備に係る取組を支援しています。

補助金を活用した市町村教育委員会の取組状況  
(令和6年10月31日現在)

取組	市町村数 (延べ数)
①統合型校務支援システムの導入	11
②教職員の客観的な勤務実態把握のための設備等の導入	3
③学校・保護者間の連絡手段のデジタル化	3
④留守番電話等の導入	6
⑤自動採点システム	2
⑥教室等への大型提示装置の設置	11
⑦その他 (教職員用端末の機能集約化等)	3

### 【事例紹介】 勤務時間外の電話対応

電話対応時間を設け、欠席等の連絡をフォームとしている学校からは、次のような声があります。

#### 効果

- ▶ 朝や放課後に仕事に集中できる。
- ▶ 保護者から「いつでも連絡できる」、「連絡方法が簡易になった」という肯定的な意見があった。
- ▶ 不登校傾向の生徒の登校意向について、随時、連絡をもらえる。
- ▶ 欠席連絡を職員室のディスプレイに表示し、全教職員での情報共有が可能になった。

#### 課題

- ▶ 保護者や地域に定着するまでに時間が必要。
- ▶ 緊急時における警察等関係機関への連絡・相談を周知すること等が必要。

## 2. 取組事例を紹介します

### 八戸市立根城中学校

### 通信表所見欄の段階的廃止



#### 一取組内容を教えてください。

本校では、通信表の担任所見欄を、令和3年度から段階的に削減し、令和5年度から完全廃止しています。

#### 一取組のきっかけを教えてください。

働き方改革の一環として、校長先生からの発案です。所見欄の代わりに、年2回実施する既存の三者面談を活用し、生徒の日常の些細な頑張りや成長した点を対面で確実に伝えることで、これまでの教育的効果を十分維持できると考えました。

#### 一生徒・保護者の反応はいかがですか？

否定的な意見や反応は特にありません。

#### 一先生方の反応はいかがですか？

大変好評です。実際に所見を書く学級担任だけでなく、それを点検する各主任や管理職も含め、かなりの労力や時間の削減につながっています。

#### (決定までのプロセス)

R3.12	教育課程編成会議で、所見欄の作成回数を、年3回(学期末ごと)から年1回(年度末のみ)にすることに決定。
R4.12	職員から「年1回では、タイムリーに生徒の良さや成長を伝えることが難しい」、「次につながる形成的な内容になりづらい」との意見があり、完全廃止を決定。年2回の三者面談を活用することを確認。
R5.1	学校だよりで保護者に周知

#### 一最後に、これから取り組もうとする学校に向けて、一言メッセージをお願いします。

「なくすべきではない」、「変えるべきではない」と考えていることでも、一度立ち止まり、「なくしたらどうなるのだろうか?」、「変えたらどうなるのだろうか?」という考えで、まずはできることから始めることが大切だと思います。